

### ③ 結核対策の技術革新:世界に対する日本の貢献

1. 新抗結核薬「デルティバ (デラマニド)」(大塚製薬) の薬事承認  
多剤耐性結核の治療のための 40 年ぶりの新薬として
  - ・ 2013 年欧州で承認
  - ・ 2014 年 7 月日本で承認
  - ・ 日本結核病学会が「デラマニドの使用について」見解を発表 (新たな耐性をつくらないために)
2. デルティバを用いた一般の結核治療方式の開発の研究
  - ・ 既存の薬剤 (イソニアジド、リファンピシンなど) との組み合わせ
  - ・ 治療期間を現行の 6 か月から 3~4 か月に短縮できないか?
  - ・ 現行の毎日投与を週 2 回、あるいは 1 回投与にできないか?
  - ・ 発病予防 (潜在性結核感染症の治療) に使えないか?  
(現行はイソニアジドを 6~9 か月使用→3 か月以下に短縮?)
3. 「LAMP 法」(栄研化学) の途上国への普及のための開発研究
  - ・ 医療・対策現場で簡便・安価に行える核酸増幅技術
  - ・ 日本で 1998 年に原理開発、様々な病原菌の検出に応用
  - ・ 結核菌検出には国内承認済
  - ・ 結核菌培養検査ができない途上国での結核早期発見への貢献に期待
  - ・ WHO などによる推奨を得ることが必要
  - ・ 官民連携プロジェクト (JICA+栄研): 中米ハイチで治験、好成績
4. BCG を凌ぐ結核ワクチンの開発
  - ・ 経粘膜ワクチン (「ヒトパラインフルエンザ・ウィルス」をベクターとした遺伝子組み換えワクチン (国立基盤研 保富))
  - ・ 難治結核の治療のためのワクチン戦略 (DNA ワクチン) (近畿中央胸部疾患センター 岡田)

問い合わせ:

森 亨 (結核研究所・ストップ結核パートナーシップ日本)

[tmori-rit@jata.or.jp](mailto:tmori-rit@jata.or.jp) / 090-3065-6819